

平成13年11月22日

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部

部 長 箇木 儀郎 (5251-1030)

処理技術室長 山本 昌宏 (5251-1032)

北九州事業に係る検討委員会報告書のとりまとめについて

環境事業団では、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会」において、北九州事業の第1期で整備する施設の処理システムに係る検討を進めてきましたが、今般、検討委員会報告書がまとまりましたので、お知らせいたします。

1. 経緯

去る平成13年10月11日に、北九州市が環境省に対しPCB廃棄物の広域処理事業の着手を了解したことを受け、環境事業団では、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会」(委員長：早稲田大学理工学部 永田勝也 教授)において、北九州事業に係る具体的な検討を開始した。

検討委員会では、北九州市から推薦された特別委員を加えて、北九州市から求められている地域条件を踏まえ、PCB処理技術保有企業及びエンジニアリング企業に対する調査等を通じて詳細な技術的検討を行い、11月20日開催の検討委員会において、「北九州ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業の処理施設について」をとりまとめた(別紙1参照)。

2. 報告書の概要

報告書では、北九州事業の前提と北九州市の地域条件を整理した上で、北九州事業の第1期整備施設に求められる処理システムの内容と、当該処理システムを選定した理由を検討し、とりまとめた(別紙2参照)。

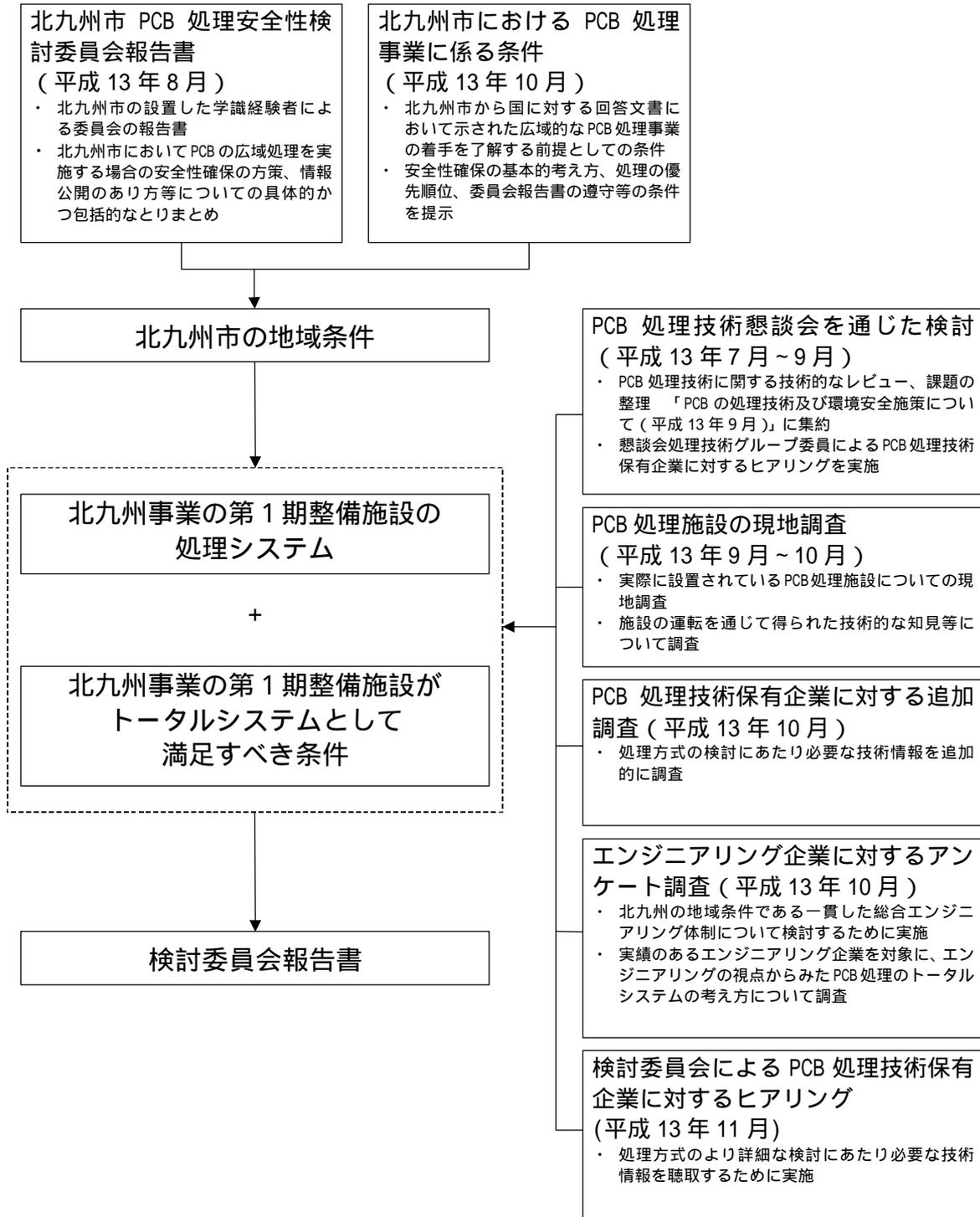
さらに、当該処理システムが、満足すべき具体的な条件を、トータルシステムとして施設が満足すべき条件、トータルシステムを支えるソフト面の条件、施設を構成する処理工程が満足すべき条件の3つに区分して詳細に検討し、とりまとめた。

3. 今後の予定

環境事業団では、本報告書を踏まえ、北九州事業の第1期の処理施設整備に向けて必要な手続きを進めるとともに、操業に向けての環境・安全面での取組内容については、情報を開示し、リスクコミュニケーションを進める。

検討委員会においては、報告書においてとりまとめられた、操業に向けての環境安全施策の技術的事項について、さらに詳細な検討を進める予定。

検討委員会報告書のとりまとめに至る検討の概要



第1期整備施設の処理システムの概要

処理対象物：北九州市分の高圧トランス・高圧コンデンサ（一定の大きさ（容量500kVA相当）を超える大型のものを除く）

処理能力：0.5t/日（PCB分解量）

前処理方式：溶剤洗浄と真空加熱分離を組み合わせる方式を原則とする。その際、原則として溶剤洗浄によるPCB除去を基本とし（ただし、洗浄には有機塩素系溶剤を使用しない。）十分な洗浄を行った上で、卒業判定基準を満足しない可能性のある含浸性部材を対象に真空加熱分離を行う。

（主な選定理由）

- ・ 第1期の処理対象物である高圧トランス及び高圧コンデンサについて、特に内部の含浸性部材の確実かつ効率的な処理を担保するためには、溶剤洗浄に加えて真空加熱分離を付加することが合理的と考えられること。
- ・ 溶剤洗浄を基本とする理由は、液状で搬入されるPCBは、液相のまま処理することが環境中への漏洩防止からは合理的と考えられること。

液処理方式：脱塩素化分解方式又は光分解方式とする。

（主な選定理由）

- ・ 第1期の処理対象物は高圧トランス及び高圧コンデンサに限定されており、適切な前処理を組み合わせることにより、これらの液処理方式で確実な処理が行えること。
- ・ 第1期で重視される地域条件として、北九州市からPCB分解処理の完了のバッチ的な確認ができるだけ容易かつ確実に行える方式が求められており、これらの液処理方式は、バッチ処理を基本としていることから、PCB分解処理完了の確認性に優れていること。
- ・ 第1期で重視される地域条件として、北九州市から万一の場合の影響が極力少ない方式が求められており、これらの液処理方式は、運転温度・圧力が常温・常圧に近いという点に優れていること。